

調査概要

「居場所」と「舞台」の創出で女性が活躍できる地域づくりを目指して
—主観的ウェルビーイングの向上にむけた調査—

Aiming to Build Communities where women can find their places and
have opportunities to thrive

— The Study on Enhance Subjective Well-Being —

1. 取組の背景

富山県は総合計画において「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域～」を掲げ、人口減少社会に対応する新たな地域づくりを進めている。これは GDP や人口規模といった経済指標だけでなく、人々の幸福や暮らしの質を重視する考え方であり、その理念は「国民総幸福量（GNH）」を国づくりの基本理念としてきたブータン王国と方向性が共通する。

ウェルビーイングの実現には、一人ひとりが性別や年齢にかかわらず能力を発揮し、社会の意思決定や経済活動に参画できる包摂的な社会の形成が不可欠である。しかし、富山県では 2024 年に人口が 76 年ぶりに 100 万人を下回り、とりわけ若年女性の県外流出が長年にわたり課題となっている。その背景には、進学先や就職先の選択肢の少なさ、男性中心の産業構造、固定的な性別役割意識などが指摘されているが、こうした状況は、地域の持続性のみならず、女性が能力を十分に発揮できる社会の実現という観点からも重要な課題であると考ええる。

また、ブータンにおいても、GNH に基づく幸福重視の国づくりを進める一方で、女性の経済的自立や意思決定過程への参画拡大、若者の雇用・活躍の促進等が重要な開発課題として認識されている。すなわち、両地域は社会経済的背景こそ異なるものの、持続可能で包摂的な社会の実現に向けて、女性や若者のエンパワメントを推進する必要があるという共通課題を有していることになる。

本取組は、こうした富山県とブータンに共通する若者・女性の活躍促進、人材流出への対応、ジェンダー平等の推進といった課題に着目し、ウェルビーイングの視点から、それぞれの地域における女性・若者の活躍を支える「居場所」と「舞台」のあり方を考察し、両地域の学びあいの場の提供を通じて、地域課題の解決に向けた示唆を得ることを目指す。

2. 対象サイト

ブータン国、富山県

3. 取組内容

(1) プロジェクト目標

富山とブータンの学生による対話と調査をとおり、「女性が活躍できると思える地域社会」のあり方を追求し、ウェルビーイング向上に繋がる政策への提言を目指します。

(2) 期待する成果

- ① ジェンダー格差の是正とウェルビーイング向上の関係について、有力な仮説を得る

富山県とブータンに共通する若者・女性の活躍促進、人材流出への対応、ジェンダー平等の推進といった課題に着目し、ジェンダー格差の是正が、ウェルビーイング向上につながるのではないかという仮説のもと、可能な範囲で、調査・分析・考察をし、その仮説の有効性を検証する。

- ② 女性が活躍できる地域社会の在り方が見える化される

富山県在住または出身で、社会やコミュニティで活躍している女性へのインタビュー調査をとおり、地方で女性が活躍を実感できる場面や環境について考察を深める。また、ブータンの大学生との対話では、互いの地域において若い女性が、「地元で活躍したい」と思える条件や「幸せを実感できている」という状態にあるために、どんな要素や環境が必要なのかを分析し、その要件を明らかにする。

- ③ 富山県及びブータン政府のウェルビーイング政策に対し、新たな視点を提供する

従来の経済指標や客観指標では捉えきれない「主観的幸福度」や「女性の活躍の“実感”」に着目した知見を提供し、富山県及びブータン政府が目指すウェルビーイング先進地域づくりへの示唆を創出する。

- ④ 若者主体による地域課題解決・政策形成の実践モデルが創出される

富山とブータンの両地域において、シビックプライド、自己実現、自己決定権、キャリアパス、社会参画などの観点から、学生自らが課題設定、調査、分析、提言までを担うことで、次世代の地域リーダー育成につなげるとともに、若者の視点を政策形成へ反映する実践モデルを創出する。

4. 実施期間

2026 年 8 月中旬～2027 年 2 月下旬

【スケジュール（案）】

日程	内容
----	----

2026 年 8 月～9 月	➤ 富山県との打合せ ➤ 有識者とのコンタクト ➤ プロジェクトメンバー（県内の大学生）の選定 ➤ プロジェクトメンバー確定
2026 年 9 月～11 月	➤ 有識者との打合せ ➤ 大学生によるリサーチ（同年代の大学生、女性起業家へのヒアリング、アンケート調査等） ➤ ブータン学生とのオンライン会議
2026 年 12 月	➤ 調査結果まとめ
2027 年 1 月～2 月	➤ ブータン渡航 ➤ 振り返り、提言内容まとめ ➤ 富山県およびブータン政府機関への報告、提言

5. 取組実施体制

日本側：

- 富山県庁知事政策局企画室ウェルビーイング・総合計画推進課、ジェンダーギャップ対策課
 - ・参加学生との意見交換及び報告会への参加や提言に対してのコメントをいただく。
- 富山県内の女性起業家
 - ・富山県で女性が活躍を実感できる環境づくりに対し、自己経験に基づいたアドバイスをいただく。
- 富山県内の大学生（若干名）
 - ・富山県内における若者とジェンダー分野、ウェルビーイングの現状調査・分析、ブータンへの調査渡航、自治体や政府機関への提言を行う。
 - ※富山県内の大学生、および首都圏へ進学した富山県出身の学生の中から選定する。書類審査と面接による選考を実施予定。
- 高野 翔氏（福井県立大学 地域政策学部 准教授／ウェルビーイング学会理事）
 - ・本取り組みのアドバイザーとして助言や生徒への指導をいただく。
 - ※本取組の名称に記載している「居場所」と「舞台」という言葉は、高野翔准教授が以下の論文で提唱している概念である。

高野翔,「ウェルビーイング自治体政策における居場所と舞台の場の概念の活用可能性の考察 ―福井県越前市におけるウェルビーイング調査をもとに―」『ふくい地域経済研究 第35号』p11-26, 2022 年

ブータン国側：

- ブータンの女子学生（パロ教育大学の学生を想定）
- 女性起業家
- NCWC（National Commission for Women and Children／女性と子どものための国家委員会）
- RENEW（男女平等と女性・少女のエンパワーメントを推進する王室系 NGO）

以上